

研究課題名	Rapid Response System 導入の効果
研究の意義・目的	当院では入院患者さまの全身状態の急激な悪化（以下急変）を減少させることを目的に、2022年4月から Rapid Response System（以下 RRS）を導入しました。これは、呼吸状態や心拍数、血圧などの異常を早期に発見し、すぐに対応することができるシステムになります。このシステムの導入前後で急変の総数や RRS 起動から急変までの時間などを比較、検討することを目的としています。
研究を行う期間	大阪公立大学医学部附属病院 看護部研究・倫理審査委員会の承認後 から 2024年2月28日まで
研究協力をお願いしたい方（対象者）	2019年4月から2020年3月、2021年4月から2023年3月の期間に入院されていて、急変により院内のコードブルーシステムが起動されて対応させていただいた方。
協力をお願いしたい内容と研究に使わせていただく試料・情報等の項目	電子カルテに記録された以下の情報を使用させていただきます。なお、個人の特定につながる内容の収集はしません。 <収集する情報> 疾患名、年齢、性別、入院中の血液検査結果（白血球数、ヘマトクリット値、ナトリウム値、カリウム値、血清クレアチニン値）、入院期間中のバイタルサイン（呼吸数、心拍数、血圧、動脈血酸素飽和度、意識状態、体温）
試料・情報の他機関への提供	収集した情報は他機関に提供することはありません。
この研究を行っている共同研究機関	ありません。
試料・情報を管理する責任者	大阪公立大学医学部附属病院 看護部 井上佳世
本研究の利益相反	ありません。
研究に協力をしたくない場合	下記窓口へ連絡することで本研究への協力を拒否することができます。協力を断っても治療や療養に不利益を被ることはありません。2024年3月14日～16日に開催されます第51回日本集中治療医学会学術集会にて発表予定です。意思表示は2023年9月30日まで対応させていただきます。これ以降は、取り出した情報を個人と紐づけられませんので、拒否することができなくなります。
連絡先	電話番号：06-6645-2501 病院看護部の電話番号ですので直通で連絡が可能です 担当者：看護師 井上佳世